

秋田県内小中学生における食物アレルギーの実態 2009年と2011年アンケート調査の比較

出典	秋田県医師会雑誌(0286-7656)63巻2号 Page80-87(2012.09) (http://search.jamas.or.jp/link/ui/2013021526)
著者	小松真紀 他
調査地域	秋田県
調査時期	2009年、2011年
調査対象	小学生(6~12歳) 中学生(12~15歳)
有効回答数	2009年 小学生:47040人、中学生:23418人 2011年 小学生:50296人、中学生:28483人
診断方法	教員の申告
有症率	2009年 小学生:1.53%、中学生:1.03% 2011年 小学生:2.83%、中学生:3.00%
調査概要	秋田県内の小中学生における食物アレルギーの現状を調査した論文。 原因食品としては小中学生ともに鶏卵が多かったが、除去食対応をしている食品は乳製品が最も多かった。エピペンの持ち込みは経年的な増加を認めた。